



2018年5月10日

# JACET-Chubu Newsletter

一般社団法人 大学英語教育学会中部支部 No. 40

## 支部長挨拶

支部長 村田 泰美  
(名城大学)

平成30年度の新学年が始まり、JACET中部支部会員の皆様におかれましては、教育に研究にお忙しくお過ごしのことと存じます。私こと平成29年度支部長任期1年目の役務をなんとか終え、安堵しているところでございますが、これもひとえに優秀な執行部、協力的な役員の方、並びに会員の皆様のご支援に負うものと紙面を借りまして感謝を申し上げます。

さて、本年度中部支部では支部大会、秋季定例研究会、春季定例研究会という3本柱の学術交流の場を軸にした活動を計画しています。「大学英語教育」に関わる日本で最大規模の学会であるJACETの支部として、会員の先生方の教育や研究に資する中身を提供できますよう努めて参るつもりです。また平成31年度は第58回国際大会が中部支部で開催されることが決定しており、役員一同が大会準備委員としてすでにその準備をスタートしました。

現在世界はそれまでの「グローバル化」の振り子が少々反対に引っ張られているように見受けられます。自国民ファーストの考えが広まり、その結果として移民排斥や経済のブロック化、保護貿易的な動きが出てきています。外交や政治の舵取りも難しく、国として向かうべき方向を考える皆様も多くいらっしゃるのではないのでしょうか。英語教育という限定された場面ではあっても、今の日本の若者と向き合い、その様子を目の当たりにする立場にいるわたくしたちには様々な面からの思考を迫られているように感じています。

日本の英語教育は小学校5、6年生における英語の教科化、高大接続という考え方に基づく入試改革など、大きな改革に向かって突進せんとしています。それまでになされてきた英語教育に対する検証も十分ではないとの批判も漏聞致しますが、社会や技術がこのような速度で変動していくときには、教育もそれに合わせて変わることが求められるのは必然かもしれません。英語教

## 目次

支部長挨拶	村田泰美	1頁
第34回(2018年度)JACET中部支部大会の開催	村田泰美	2頁
<u>講演会報告</u> 野口ジュディー氏「誤解されたESPとその可能性」	石川有香	3頁
<u>研究会報告</u> 多文化共生と英語教育研究会	小宮富子	5頁
<u>海外学会報告</u> American Association for Applied Linguistics (AAAL) Chicago 2018	三上仁志	6頁
事務局より		8頁

育や研究に携わる JACET メンバーは当事者として研究を進め、先駆的实践者として三思後行が期待されるところです。

最後に、最近人気の高い歴史家の磯田道史氏の本を読む機会があり、その中に福澤諭吉の『学問のすゝめ』について書かれていたことに共感を覚えましたので、ご挨拶の締めくくりに代えさせて頂こうと思います。曰く「唯文字を読むのみを以て学問とするは、大いなる心得違ひなり」「文字の間屋と云ふべきのみ」。それではどうすればよいのか。学者は世の中の役に立たなければならず、広く実社会に学問成果を語り、国民の見識を高尚に導かなければならないと続きます。「学者何を目的として学問に従事するや」「同志の朋友なくば一人にてこの日本国を維持するの氣力を養ひ、もって世のために尽くさざるべからず」

今後1年間、中部支部を同志の朋友の氣力を養う場にしたいと願っております。役員の皆様、また会員の皆様のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

**第34回(2018年度)  
JACET 中部支部大会の開催  
村田 泰美  
(中部支部長・理事)**

本年度開催されます JACET 中部支部大会のお誘いを申し上げます。第34回 JACET 支部大会は愛知大学名古屋校舎にて、愛知教育委員会及び名古屋市教育委員会の後援を得て、6月16日(土)に開催する運びとなりました。今回のテーマは「大学英語入試で何を測るべきか」に設定しました。多くの方々の関心を引くテーマではないかと思ひます。特別講演には長年日本の英語教

育の実践や研究に従事され、さまざまな提言を発信されてきた立教大学名誉教授鳥飼玖美子先生をお迎えします。また大会テーマに即したシンポジウムでは、鳥飼先生にもご登壇頂き、名城大学の藤原先生をモデレーターとして、評価をご専門とする法月健 静岡産業大学教授、および日本英語検定協会の 塩崎修健 氏 を交えて、目前に迫っている大学英語入試についての報告や討論を通して参加者の皆様と共に理解を深めて行きたいと存じます。

例年通り、会員の皆様による研究発表やテキスト出版社による展示もあります。本年度の展示には英検協会にもご参加頂けることになりました。多くの会員の皆様にご参加頂き、ともに思索、研鑽する1日となることを願っております。



## 講演会報告

中部支部 2017 年度春季定例研究会

「誤解された ESP とその可能性」

野口 ジュディー 氏

(神戸学院大学名誉教授)

2018 年 3 月 3 日

(於：南山大学)

手元の『英語教育用語辞典』を見ると、ESP は、「ある特定の目的を持って学習され使用される英語のことで、一般目的の英語 (English for general purposes/EGP) と対照をなす概念」とされる。工学英語やビジネス英語などが例として挙げられている。しかし、考えてみれば、実際のコミュニケーションは、たいてい、何らかの特定の目的を持って行われているのではないだろうか。いったい、「特定の目的」と「一般の目的」は、どのように区別すればよいのだろう。

2018 年 3 月 3 日に開催された春季定例研究会では、「誤解された ESP とその可能性」と題して、野口ジュディー氏の講演が行われた。日本の ESP 研究の第一人者として、常に、学界をリードする氏の講演は、工学英語やビジネス英語といった、特定の分野に限定されたものではなく、むしろ、日常的に行われている「コミュニケーション」の枠組みをどのようにとらえ、それを、どのように教育にいかすべきかという、一般

的で根源的な言語教育の問題を取り扱っていた。社会の中で機能する「ことば」と、「ことばの教育」のあり方を考える、非常に有意義な時間となった。



グローバル化が進む現代社会では、我々は、しばしば地域や国境を越えてコミュニケーションを行う必要性に駆られる。特に、研究者など、特定の問題について話し合う必要のある集団 (コミュニティ) においては、より円滑なコミュニケーションを行うために、コミュニケーションがパターン化されていく傾向が強い。そして、繰り返し使用される表現やレトリックのパターンによって、「論文」や「実践報告」などの「ジャンル」という概念が構成される。目前のテキストは、単独の存在ではなく、「ジャン

お蔭様で 100 周年を迎えることができました。  
皆様の日頃のご愛顧に感謝いたします。



金星堂  
since 1918

**KINSEIDO**

ル」の一部であり、さらに、「ジャンル」は、コミュニティが実践する慣習の一部であると、氏は指摘する。

氏によれば、「ジャンル」は、**Form**（言語）、**Substance**（情報）、**Action**（影響）の3要素を備えているとされる。コミュニティで繰り返し使用されている「言語」を用いて、一定の「情報」を伝え、何らかの社会的な「影響」を持つもののみが、「ジャンル」として認識される。たとえば、表現が十分でない「論文」も、内容がねつ造された「論文」も、誰も読まない「論文」も、「論文」とは認められない。3要素のうち、ひとつでも欠けたテキストは、「ジャンル」から除外されることになるという。

氏は、授業においても、テキストのみを取り扱うのではなく、その背後の「ジャンル」に注目させることが肝要であると主張する。すなわち、テキストが、どの「ジャンル」に属していて、何の目的（**Purpose**）で、誰に（**Audience**）向かって、どのような情報（**Information**）を、どのような言語（**Language features**）で伝えているのかを理解させることが、コミュニケーション能力育成の重要なカギとなるという。氏は、これを、頭文字で、テキストの **PAIL** と呼ぶ。

また、氏は、学習者が **PAIL** を観察し（**Observe**）、それらを分類して（**Classify**）理解し、さらに、自分で仮説を立てて（**Hypothesize**）、コミュニケーションで使用する（**Apply**）といった、一連の活動を可能にするためのタスクを提示することの重要性を指摘する。この活動過程は、**OCHA** と呼ばれ、学習者が「ジャンル」を理解し、

使用するために不可欠な活動と位置づけられている。講演では、大学院生レベルの学習者を対象とする、コーパス分析を利用した論文指導から、中級レベルの学部学生を対象とする、イソップ寓話や昔話をを用いた創作活動まで、**OCHA** の活動を踏まえた、さまざまなタスクの紹介が行われた。

ことばは社会の中で使用される。コミュニケーションは、**PAIL** で成り立つ。我々は、日々、意識的または無意識的に **OCHA** を用いて、コミュニティの慣習に沿ったコミュニケーション活動を行なっている。**ESP** 教育における **PAIL** や **OCHA** の考え方は、科学論文の執筆やビジネス書の読解など、「特定の目的」を持って使用される英語の指導に効果を発揮してきた。しかし、コミュニケーションの本質を考えたとき、「一般的な目的」で使用されている英語の指導においても、有効な手法となり得るとする氏の主張は、説得力のあるものであった。

石川 有香（名古屋工業大学）



## 研究会報告

### 多文化共生と英語教育研究会 SIG on Multicultural Coexistence and English Education

「多文化共生と英語教育研究会」は中部支部を中心とする7人の会員で構成されており、「グローバル化した現代社会のニーズに直結した視点で日本の大学英語教育を捉えなおす」という趣旨のもと、多文化共生時代の英語教育や外国語教育のあり方を多角的に研究することを目指しています。

主な研究課題は ①多文化・多言語化する日本社会（及び国際社会）の現状と社会認識に関する研究 ②多文化・多言語社会における英語の国際的役割の変化や英語の多様化に関する研究 ③多文化・多言語時代の日本の英語教育のあり方に関する研究であり、多文化多言語共生の視点を含む英語教科書の企画・出版なども行ってきました。

近年の活動としては、愛知県・岐阜県・宮崎県の8大学の学生589人を対象に、「1. 多文化多言語社会への意識、2. 英語教育・英語力への認識、3. 多様な英語への受容性（国際英語論的態度）」に関する調査を実施したことが挙げられます。調査を通して多くの事実が抽出されていますが、中でも、海外渡航経験が「多文化共生意識」や「英語学習意欲」「英語への自信」を高めていること、国際英語論の知識が直ちに「母語話者英語至上主義からの脱却」に繋がるわけではないものの、自分の英語への自信

に繋がる肯定的効果を持つこと、異文化交流への積極性に性差が見られることなどが確認されています。

研究結果については、2016年10月のJACET 中部支部秋季定例研究会にて中間発表を行った他、JACET 第56回国際大会（2017年青山学院大学）において「多文化共生・英語学習・英語の多様性に関する8大学での意識調査」と題して発表されました。今後の展望としては本調査をさらに精緻化・焦点化し、研究成果の出版に繋いでいきたいと考えています。

また本研究会では、科学研究費の取得実績を重ねたメンバー個人の研究活動も積極的に行われており、ELF9 国際大会（2016、Spain）、第22回 IAWE 国際大会（2017、Syracuse）での研究発表の実施や、ELF11（2018、London）での発表を予定している等、複数の国際学会において積極的に研究発表を実施している点も特徴となっています。

小宮 富子（岡崎女子大学）

**子どもとはじめる英語発音とフォニックス**  
●山見由紀子/赤塚麻里/久保田一充●

**英語教師を目指す学生の必読書**  
小・中学校の英語教育で導入され注目を集めているフォニックスを見やすく、わかりやすく説明した一冊です。音声学の観点からの説明と、付属の音声、動画（無料ダウンロード）で学習者自身の発音改善が期待できます。



B5判(100) CD付 定価(本体2200円+税) 978-4-523-26555-9

 株式会社 **南雲堂**  
〒162-0801 東京都新宿区山吹町 361  
TEL: 03-3268-2311 / FAX: 03-3268-2486  
E-mail: nanundo@post.email.ne.jp

## 海外学会報告

### American Association for Applied Linguistics (AAAL) Chicago 2018

2018年3月23日(金)から27日(火)にかけて American Association for Applied Linguistics (AAAL) の年次大会がシカゴで開催され、世界各国から1,500名の参加があった。本稿では以下の3点に焦点を当て、AAAL年次大会の様子を報告する：①発表の応募件数と採択状況、②会場、③特に参考となった企画(国際誌への論文投稿に関するセッション)。

#### ① 発表の応募・採択の状況


AAAL 2018への発表応募件数は、主催者発表で2,000件超であり、採択件数は、ペーパー606件、ポスター123件、コロキウム50件であった。応募する発表枠や研究分野によって採択率は変化するだろうが、上記3つの発表枠への応募件数(779件)を採択件数で単純に割った場合、採択率は40%程度となり、比較的審査の厳しい大会となったようだ。

#### ② 会場

日本国内の応用言語系の学会では大学が開催場所となることが多いが、AAALの年次大会は、ホテルの2～3フロアを貸切り、各フロアの会議室を発表会場にするのが常だそうだ(今回の会場は、Sheraton Grand Chicagoであった)。今回は、会場となるホテルに宿泊したため、エレベーターを降りれば、すぐに学会に参加できた。このような大会開催方法は、会場周辺地域への土地勘がなく、しかも時差と戦いながら学会に集中する必要がある日本からの参加者にとっては、大変ありがたいものであった。

#### ③ 特に参考となった企画

参考となる発表・企画は数多くあったが、中でも複数の応用言語学系ジャーナル(*Language Learning, Studies in Second Language Acquisition, Language Testing*など)の編集員が一堂に会してフロア(研究者たち)からの質問に答える企画は、特定のジャーナルに掲載されやすい論文の特徴を学ぶことができ、特に有益であった。以下に、なるほど考えさせられた発言を紹介する。

成美堂 2018年 新刊のご案内		〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-22 TEL 03-3291-2261 / FAX 03-3293-5490
New Connection Book 1	2,200円(税別)	SUCCESSFUL STEPS FOR THE TOEIC® L&R TEST A Topic-based Approach -New Edition- 2,000円(税別)
New Connection Book 2	2,200円(税別)	QUICK MASTERY OF THE TOEIC® LISTENING TEST 1,300円(税別)
Break Away 2	1,900円(税別)	AFP World News Report 4 2,500円(税別)
Reading Success 3	2,000円(税別)	Winning Presentations 2,500円(税別)
Britain at a Watershed	1,900円(税別)	Meet the World 2018 -English through Newspapers- 2,000円(税別)
Science in Our Daily Life	1,900円(税別)	Understanding Our New Challenges 1,900円(税別)
Trend Watching 2	1,900円(税別)	English for Student Pharmacists 1 2,800円(税別)
Good Reading, Better Grammar	1,900円(税別)	
PERFECT PRACTICE FOR THE TOEIC® L&R TEST -Revised Edition-	2,200円(税別)	株式会社 成美堂  SEIBIDO ●書籍の情報はホームページでもご覧になれます。 URL: <a href="http://www.seibido.co.jp">http://www.seibido.co.jp</a> e-mail: <a href="mailto:seibido@seibido.co.jp">seibido@seibido.co.jp</a>
START-UP COURSE FOR THE TOEIC® L&R TEST -Revised Edition-	2,000円(税別)	

(1) 良い論文であっても、ジャーナルの Aim & Scope と合わなければ、審査の対象とはならない (=内部レビューにかかる時間が、投稿者と編集員の双方にとって無駄になる)。そのため、ジャーナルの Aim & Scope を熟読してから論文の投稿先を決めると良い。

(2) 自分の論文の参考文献欄を見て、投稿先のジャーナルが引用されていない場合、そのジャーナルへの投稿に慎重となった方が良い。編集者も、論文の内容がジャーナルの Aim & Scope と合致するか、疑問を抱きやすくなる。

(3) 仮に、投稿論文の内容が、ジャーナルの Aim & Scope と一致していることに自信がない場合、論文の序章で、どのような理由で投稿論文がジャーナルの Aim & Scope と合致しているかを明示的に書くと、編集部としてはレビューが容易となり、査読プロセスも円滑となる。なお、このような文章を Cover letter として歓迎するジャーナルもあったが (例えば、*Journal of Language, Identity & Education*)、著者の主張は論文内で完結しているべきとする意見も複数あった。

(1) ~ (3) の情報は、基礎的ではあるが、内部審査にかかる時間を減らすためのヒントである。日本で研究活動をしていると、国際誌の編集員と話す機会も限られるため、論文の掲載までに要する時間を減らすコツを学ぶことも難しい。このような研究のコツを AAAL で明示的に聞いたことは、有意義な経験であった。



※ American Association for Applied Linguistics (AAAL) ウェブページ  
[URL] <http://www.aal.org/>

三上 仁志 (中部大学)

#### 掲示板

『JACET 中部支部紀要』第 16 号への掲載論文の投稿 (学術論文、研究ノート、実践報告、書評) を募集します。ぜひ奮ってご応募ください。

締切: 2018 年 9 月 10 日

掲載料: 刷り上がり 1 ページにつき、1,000 円の負担

長さ: 研究論文 23 ページ以内、実践報告・研究ノート 15 ページ以内、書評 5 ページ以内

問合せ: JACET 中部支部事務局

投稿規程など詳細は、ホームページや紀要最終ページでご確認ください。

中部支部紀要編集委員会

## 事務局より

### ◆ 2018 年度中部支部役員のご紹介

顧問 田中春美 (南山大学名誉教授)、  
吉川 寛 (中京大学)  
理事 村田泰美 (名城大学)  
佐藤雄大 (名古屋外国語大学)

支部長 村田泰美  
副支部長 佐藤雄大  
事務局幹事 藤原康弘 (名城大学)  
幹事 (支部会計担当)  
今井隆夫 (愛知教育大学 [非])

研究企画委員 (21 名)  
安達理恵 (愛知大学)、石川有香 (名古屋工業大学)、伊東田恵 (豊田工業大学)、今井隆夫、榎木蘭鉄也 (中京大学)、大石晴美 (岐阜聖徳大学)、大森裕實 (愛知県立大学)、岡戸浩子 (名城大学)、北尾泰幸 (愛知大学)、木村友保 (名古屋外国語大学)、リーア・ギルナー (愛知大学)、倉橋洋子 (東海学園大学)、小宮富子 (岡崎女子大学)、佐藤雄大、塩澤 正 (中部大学)、鈴木達也 (南山大学)、馬場景子 (中部大学 [非])、藤原康弘、三上仁志 (中部大学)、村田泰美、吉川 寛

### ◆ 新入会員のご紹介

2017 年 12 月から 2018 年 5 月までの中部支部所属新入会員は以下の方々です。(敬称略、入会順)

石川 芳恵 (静岡大学 [院])、ニクソンリチャードマーク (愛知県立大学)、関山健治 (中部大学)、シェーフア ジェフリー (静岡大学)、種村 俊介 (金城学院大学)、

山之内 健太 (名古屋学院大学 [非])、内田政一 (桜花学園大学)、紺渡 弘幸 (仁愛大学)

### ◆ 2018 年度 JACET 国際大会ご案内

第 57 回 (2018 年度) 国際大会は 2018 年 8 月 28 日 (火) ~ 8 月 30 日 (木) の 3 日間、東北学院大学 (土樋キャンパス) にて開催されます。

大会テーマ

Assuring Quality Learning Outcomes in Primary to Tertiary English Education for Globalization

「グローバル化に向けた初等英語教育から高等英語教育までの学習成果の質保証」

◆ ニュースレターは会員の皆様のフォーラムです。ご意見、ご要望等は事務局までメールでお送りください。投稿も歓迎いたします。

JACET 中部支部事務局

〒461-8534 名古屋市東区矢田南 4-102-9  
名城大学外国語学部 藤原康弘研究室内

E-mail: fujiwara@meijo-u.ac.jp



**JACET-Chubu Newsletter No. 40**

2018 年 5 月 10 日発行

発行者：一般社団法人 大学英語教育学会  
中部支部 (代表) 村田泰美

編集者：藤原康弘 佐藤雄大 北尾泰幸